

千葉県内最古の鉄道遺構

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第038号
名称(型式等)	総武鉄道物井川橋りょう亀崎橋台跡
所在地	四街道市亀崎地先
設立年	明治27(1894)年に開通

選定理由

現在の JR 総武本線の前身である私鉄「総武鉄道」は、明治 27(1894)年に市川—佐倉間で開業し、当時は蒸気機関車が走行していました。

鹿島川(物井川)の低湿地を通るため軌道敷は盛土により築堤し、その端部には土留めのため間知石を積み上げて翼壁としています。橋りょうは鉄(鋼板)桁で、橋台部分はレンガ造りです。レンガは、長手方向と小口方向を交互に積み上げるオランダ積みと呼ばれる積み方で、天端には笠石風の装飾を施しています。橋桁を支える部分は花崗岩(御影石)製の床石を配して補強しています。橋台に使用されたレンガは製造所の刻印が確認できるものがあり、桜の花びらのモチーフが二種あります。うちひとつは、東京の小菅集治監(現在の東京拘置所)で製造された旧法務省の建物と同じレンガで、日本のレンガ製造の初期の段階の製品です。

総武鉄道市川—佐倉間は、千葉県内で最初に開通した鉄道路線であり、その当時に建造された物井川橋りょう亀崎橋台跡は、県内最古の鉄道遺構として近代土木技術史上貴重な構造物です。

物井川橋りょう亀崎橋台跡は、平成 19(2007)年に四街道市指定文化財に指定されています。



写真1：物井川橋りょう亀崎橋台跡



写真2：総武鉄道亀崎鉄橋と蒸気機関車
(昭和42年頃)

協力：四街道市教育委員会